九州豪雨調查報告(第4報)

日時:2017年7月12日

調査地

1. 桂川下流 県道 589 号線沿い



写真-1 越水によりビニールハウスが倒壊している。反対側のビニールハウスは倒壊していないが、ハウス内には50cm程度の泥の堆積がある。



写真-2 冠水した水田の状況

### 2. 荷原川



写真-3 桂川と交わる付近の右岸側と左岸側破堤した箇所であり、緊急の補修工事がすでに行われている。

## 3. 桂川上流の須川地区



写真-4 生活道路の橋が崩落した箇所である。写真の石の橋脚が 9 本設置されて、下流部には堰がある。右岸側の樹木が倒壊し川の流下機能を低下させ、越水したことによるものと思われる。



写真-5 越水した水深は 0.5m程度と推定される

## 4. 桂川須川橋付近



写真-6 左岸側を越流して道路上を流れ、河道に戻っている



写真-7 法面の擁壁を倒壊させている



写真-8 河道の側岸侵食が著しく、側道が崩落している。

## 5. 奈良谷川 (ため池)



写真-9 ため池の余水吐きが流出しており、その上の生活道路も崩落している。道路と余水吐きとのクリアランスは 3m 程度である。



写真-10 ため池には多数の流木がトラップされている。



写真-10 ため池の周辺は実をつけた柿の木が多数植えられており、流木や底泥が堆積等している。



写真・11 ため池からの国道 386 号線上の流木。周辺に散乱し撤去された流木が側道に高く積まれた状態であり、乾燥した路面からの砂埃が多い。

# 6. 赤谷川



写真-12 堆積した土砂で河道が閉塞し陸地化している。



写真-13 堆積した土砂の高さは場所によるが数 m 程度に達している。



写真-14 古い家屋は少し高台に石垣の上に建造されている。



写真-15 比較的新しい家屋は古い家屋よりも元河道の近くにあり、石垣等はない。家の壁が抜けている

## 7.花月川(小野地区)



写真-16 斜面崩壊で河道が閉塞し、天然ダムが形成された現場である。



写真-17 ダムからは通水され、河道内には流れがあるが、高濃度の泥水である。 河道内には最大 1m径の礫が散乱しており、その一部は写真-18 のように河床から数 m 上の道路まで移動している



写真-18 道路上に運ばれた礫である。木製の高欄は損傷していないので、衝撃的な作用は小さいことが伺える。水位は痕跡から高欄付近までと推定される。



写真-19 下流側の礫の散乱状況である。右岸側の水田等への被害は泥水の流入は少ない。